



2022年9月23日(金)たんぽぽA・B型親睦日帰り旅行「柳川の川下り」



# 障害者と共に

## 第105号

社会福祉法人  
キリスト者奉仕会大牟田市新勝立町3丁目5番地15  
大牟田恵愛園  
恵愛ワークセンター  
ハーベンくぼん  
ハタツ

### 消えゆくもの、ないもの

キリスト者奉仕会チャップレン 真柄 光久

二〇〇一年の二年前のクリスマスイブは、ニューヨークブルックリン区のアパートで一人で過ごしました。近くには高級住宅街のワシントンハイツがあり、ここは、ブルックリン橋の対岸のマンハッタンのワールドトレードセンターを含むオフィス街の飾り立てたクリスマスの夜景を眺めることができ、人気の展望スポットでもありました。

カツプルや家族連れであふれるそこを、一人で歩いているのは私だけしかいなかつた。遠くに自由の女神像も望め、クリスマス装束で飾られていた。対岸に見える船上レストランは満員で、こちらに乾杯をする声が聞こえるような気がした。

一人でクリスマスを過ごすはめになつた理由はかんたん。だれも招待してくれなかつたからだ。友

人たちは、みんな故郷へ帰つていつたし、「一緒にこない」なんて説つてくれるような友人のもてる時代ではなくなつていた。マンハッタンに住んでいたり友人たちは、別荘のあるロング・アイランドのイーストハンプトンや暖かい所へと移動してしまつていた。

クリスマスだから、なにか特別なものをと思っていたのだが、

クリスマスに一人客を、歓迎するレストランなんてない。そんな夜でも開いているピザ屋で、スライスされた冷えたピザを二枚買

い、コーラを買い、クリスマスだらうと自分を納得させ、チーズケーキを一切れ買って、アパートに戻り、冷え切つたピザをチン

して、コーラと、交互に飲みながら、食べた。テレビはないので、ジャズを専門に流しているラジオ局を聞きながら、東京では、妻と娘

が、ケンタッキー・フライドチキンを食べて、好きなケーキ屋さんのケーキを食べているのだろうなと思うと、「ニューヨークでクリスマスイブには一人でいたくない」と言つて、家族の待つてゐるインディアナの田舎町に、ボクを誘うこともなく帰つて行つた友の言葉が身に染みた。身といつても皮膚までで、心の奥底まで沁みてくる

ことはなかつた。本という友がいるから、ピザを口に放り込みながら、コーラも時々のみ、その本を読み続けていると、その面白さに引き込まれ、いつのまにやら、一人でクリスマスイブを過ごしていることを忘れていた。

深夜にクリスマスイブ礼拝をしている教会を訪ね、讃美歌を大声で張り上げ、何千人と一緒に礼拝を受け、ワシントンハイツまで遠回りをして、もう一度、ワールドトレードセンターにクリスマスの挨拶をし、アパートに戻った。

二年後、ワールドトレードセンターはなくなつた。友人たちの何人かにも、二度と会うことはなかつた。ビルの一階にあつたプロードウェイのミュージカルが半額で見られるチケットを売つていた売り場もなくなつた。何度もニューヨークの夜景を見に上つた屋上も当然ない。地下一階のすしレストランで働いていた友人は、まだそこで眠つてゐるのだろう。スタッフでコーヒーをニコニコ顔で渡してくれた役者志望のハンサムな黒人男性もいなくなつた。身の回りの小さなことがたくさん消えていった。消えていかないのは、近くの教会の屋上で今も光つてゐる十字架だけだ。

# 第一回法人リーダー養成研修会

理事長 叶 義文

コロナ感染拡大が続く中、今年の八月末、どうとう我が法人・入所施設においてもクラスターが発生しました。入所者九人、職員五人、合わせて一四人が感染しました。病院に入院をお願いするも、受入れがむずかしく、施設の中で陽性者と陰性者を分け支援を行つていきました。職員も感染や濃厚接触等により休みが多い中、分けて支援を行う分、より多くの支援者が必要になり、現場の職員の精一杯の踏ん張りと協力で、なんとか乗りきることが出来ました。なにより、誰も重症化せず回復できたこと、感謝に堪えません。一日も早く、安心できる薬が開発され、また以前のように交流できることを願っています。

二〇二三年四月、キリスト者奉仕会は創立四十周年を迎えます。現在、記念誌づくり等に取り組んでいますが、今後ふれあい講演会、記念式典・祝賀会の実施についてはコロナの感染拡大もあり、現在検討しているところです。

さて、今後の法人を考えていく上で、法人を担う人材の育成は重要で、喫緊の課題であると思つています。そこで、今年度より、法人の取組

みとして、第一回法人リーダー養成研修を行つこととしました。

目的としては、社会福祉法人キリスト者奉仕会を担う職員の育成・法人の次期リーダーの育成です。今年度は、三年以上の経験年数を条件としましたが、一〇名の参加のもとのスタートとなりました。

この研修は前期が三日間、後期が三日間、最終一日と全国社会就労センター協議会のリーダー養成ゼミナールを参考に、法人内で取り組み始めたところです。この研修の受講者は、本人の希望が基本で、一年かけて自分が決めたテーマについてレポートを書くこととしています。プログラムについては下記の通りですが、先日コロナ感染拡大で延期されていました、前期の研修が終了したところです。

「法人の歴史と現状・今後に向けるところですが、今後ふれあい講演会、記念式典・祝賀会の実施についてはコロナの感染拡大もあり、現状を持ち、参加者同士語り合いました。お互いの知らない側面や大切にしていること、悩んでること等も聞くことが出来、貴重な場でした。

まだ、研修は前期が終わつたばかりです。これからそれぞれレポートを進めていきながら、次は一二月の後期二日間の研修となります。そして最終のレポート発表を終え、修了証授与となります。

また、「障害者権利条約」について

は大牟田市議会議員の古庄和秀さんから、「福祉と人権」では、大牟田市障害者協議会事務局長の大場和正さんから当事者としての想いを聞きました。また、当法人の原点でもある「キリスト教社会福祉」については、鳥栖キリスト教会の野中宏樹牧師から講義をしていただき、「地域福祉と相談支援」については、ハーツの古賀敬之所長、「大牟田市障害者協議会」については、事業部長の泉田健一さんから話してもらいました。どの話も貴重で参加者にとっては得るもののが大きかつたと思います。そして、前期の最後の視察研修は、熊本の「愛隣館」に行きました。愛隣館の相談支援の取組み、重度障がい者の活動支援やグループホームの展開、今後の展開に参考になる話をたくさん聞くことが出来ました。

研修後は、振り返りや情報交換の場を持ち、参加者同士語り合いました。お互いの知らない側面や大切にしていること、悩んでること等も聞くことが出来、貴重な場でした。

まだ、研修は前期が終わつたばかりです。これからそれぞれレポートを進めていきながら、次は一二月の後期二日間の研修となります。そして最終のレポート発表を終え、修了証授与となります。

最後に、この研修を通してキリスト者奉仕会で大切にしていること（人権多様性の尊重、キリスト教会福祉、共生、「愛」）が共有でき、これから法人の歩みを共に担つていくことが出来ればと願っています。

	前 期			後 期			最終日
	1日目	2日目	3日目	1日目	2日目	3日目	
A M	法人の歴史と今後	地域福祉と相談支援	視察研修①「愛隣館」	障害者権利条約②	就労支援	視察研修②「福岡コロニー」	
	障害者権利条約①	大牟田市障害者協議会		障害者福祉の現状と課題	財務管理会計・報酬		福保健と人権③
P M	福祉と人権①	グループディスカッション	福保健と人権②	振り返り	キリスト教社会福祉②	グループディスカッション	レポート発表と質疑
	キリスト教社会福祉①	振り返り		キリスト教社会福祉会			情報交換会
	情報交換会		情報交換会	情報交換会	情報交換会		情報交換会

## 国立国会図書館蔵書デジタル化の実践

「多様な担い手が活躍できる就労の場を見据えて」

障害者就労・自立支援センターたんぽぽ 施設長 谷山 恵一

今年の七月から本格稼働した国立国会図書館(National Diet Library:以下NDL)の蔵書デジタル化事業は、早四ヶ月目を迎えようとしています。現在、たんぽぽ大牟田中央サテライトオフィスでは、四回目の納品に向けて五十人以上の従事者が日々慌ただしく働いています。

本事業は「共同作業場」として、市内外から四箇所の障害福祉サービス事業所(恵愛ワークセンター、リード倉永、グッドジョブ大川、オアシス)が施設外就労として職員と利用者がユニットを組み、拠点事業所であるたんぽぽと共に総勢三十六名の利用者と職員でNDLのデジタル化の仕事に取り組んでいます。県内のもう一つの共同作業場である「あけぼの園」は拠点事業所と施設外就労で参加する事業所すべてが就労継続支援B型の事業所で構成されていますが、たんぽぽについては障がいのある従事者の七割以上が就労継続支援A型の事業所の利用者であることが特徴です。本事業がB型利用者の大幅な工賃

アップに資することは言うまでもありませんが、併せて障がいのある人の新たな雇用を生み出す事業でもあります。たんぽぽ恵愛ワークセンターでは本事業で雇用したA型利用者が現在七名在籍し、一日七時間のスキヤニング作業を行っています。一時間に百五十コマ(見開き二頁分が一コマ)近く正確にスキヤンする利用者もおられ、量と質、共に一般企業に負けない仕上がりを実現しています。

一方で、本事業では二十六名のアルバイト従業員を雇用しています。今年度受注した百五万コマを最終納期の二月下旬までに納める為の計画を立案する際、従事者の標準作業量を想定し、一日に必要な稼働時間と一月の稼働日数、各工程の必要人員数を洗い出しました。結果、たんぽぽと施設外就労事業所の利用者職員だけでは必要人員を埋めきれず、アルバイトの人員確保に動くことになりました。

人員確保にあたっては、「多様な担い手が活躍出来る就労の場にしたい」という想いから、障がい者以

外の働きづらさを抱えている人たち、例えばニート、ひきこもり、高齢者、生活困窮世帯など広義の就労困難者に着目し、その人たちを支える様々な支援機関に足を運びました。地域若者サポートステーション、福岡県生涯現役チャレンジセンター、社協の生活支援相談室(生活困窮者自立支援制度)の相談員と面談し、NDLの仕事で求められる作業能力と適性を伝え、また本事業とマッチングし得る対象者像として、本が好きな人、写真や撮影が好きな人、PCを使ったデスクワークを希望する人、単独で黙々と出来る仕事を希望する人、コミュニケーションが苦手な人、短時間から働きたい人、昼夜逆転の生活リズムから抜け出せない人、等々を共有し、其々の支援機関に登録している求職者を紹介してもらいました。

現在、大学生をはじめとする一般アルバイトが六名、就労困難者枠のアルバイトとして地域若者サポートステーションから十三名、社協から一名、高齢者六名を雇用し、夜の部を中心に現場の一工程を担っています。国のプロジェクトの一躍を担い、文化資産として後世に残るものを作り上げていく仲間として、もはや誰一人として欠かすことの出来ない存在です。



資料のデジタル化は今後、NDLに限らず官公庁や企業等でも進むことが想定されます。これから実績を積み上げていくことで益々仕事が受注出来、障がいのある人の所得向上と自立に繋がる事業となることを期待しています。一方で、今回の実践を通して障がい者就労支援の枠を超えた、多様な担い手が活躍する「ダイバーシティ化した就労の場」が実現しました。近い将来、既存の制度で最も充実している障がい者の就労支援の対象が、広義の就労困難者まで広がるかもしれません。そのような未来を見据えて、地域の就労支援を担う拠点として日々新たな実践と挑戦を積み重ねていきたいと考えています。

## 大牟田恵愛園

### さかいめ

なない、医療責任者 北岡 哲

「肯定的な関わりと信頼で人との関係性は出来ている」確信した言葉からはじまりました。

二〇二二年十月八日(土)～九日(日)にかけて自閉症協会全国大会、佐賀大会が「だれもが自分らしく、ありのままに生きていける社会をめざして」～自閉症スペクトラム症の理解から考える～が開催され、参加しました。紹介したい講演は二日目の最後のプログラムでした。講師は野澤和弘さんで植草学園大学副学長(教授)・毎日新聞客員編集委員をされているそうです。障がい当事者の親であり温かい語り口の落ち着いた白髪の年配の方でした。

野澤さんの「確信した言葉」は、様々な角度から体験を交えて説明がありその中で興味深い幾つかを紹介したいと思います。

ひとつは津久井やまゆり園での殺傷事件で犯人が裁判の中で語った動機の形成の話。

①入職当初「障がい者はかわいい」↓

②入職してしばらく「障がい者は人間扱いされていない可哀そだ。↓③先

輩に相談したら「二～三年したらお前にも分かる」といわれた。④「重度障がい者は生きる価値は無い。社会を不幸にする」といった変化があった。

裁判の中では「施設勤務経験を基礎とし、関心を持った世界情勢に関する話題を踏まえ生じたものとして、動機の形成過程は明確であつて病的な飛躍は無く、了解可能なものである」という

ことが示され、施設勤務の経験が動機になつてゐる事を指摘されました。②の「障がい者は人間扱いされていない可哀そだ」となった経緯を野澤さん自身が神奈川県の調査の中心となつて行ななかで、安易な拘束縛る、監禁の日常化・多量の服薬が検証委員で確認され「刑務所の独房のようだった」そう

です。そういう施設の環境や雰囲気の中で、「人間扱いされていない可哀そだ」↓「重度障がい者には生きる価値は無い。社会を不幸にする」といった動機が作られていつたと話されました。

「可哀そな存在」から重度障がい者に生きる価値は無いに至る過程は施設の環境を考えると納得がいくものでした。安易な拘束、独房の様な場所での日常的な監禁状態の中では、信頼や肯定できる関係性は作り難かつた。

その人に何を見るか、このことは、肯定的に前を向いて関わることが出来る事例や説明がありました。野澤和弘さんは街づくり等にも取り組まれておられるそうで、「肯定的な関わりと信頼で人との関係性は出来ている」このこととは障がい当事者だけでなく、引きこもりの方にも、すべての方にも通じる言葉だと感じています。特に肯定的に捉える大きさ、重さを感じる事が出来た

の関わりを振り返ると多くの境目があつたと思い返しました。その人の特性やこだわりを前向きに捉える・認めしていく事とそれを支える雰囲気を含めた環境づくり(施設では支援者ひとりひとりが意識して関わる事が大切)と思ひ、大きな課題だと感じます。

野澤さんは殺傷事件の後、傷を負われた方のその後の生活を追跡調査されたそうですが、その中で、グループホームでの生活があり、自身の生活を取り戻され支援する方々と信頼を築かれて活動を送った姿を見て、「肯定的な関わりと信頼」の重要性を感じられたようです。

関わり方や視点の違いで、その人の未来が大きく違つてくることを実感しました。

もうひとつは、「支援者との関係・価値観が影響し合うと言う事。ゆたかな価値観を認め合える支援者」(ここでの支援者は家族や、生活に関わる人も含む広い関係)の中で話された。ご自身の事例です。散髪の時の失敗談から始まりました。ある床屋で息子(障がい当事者)の散髪をする為、嫌がる息子を押さえ、切つてもらおうとするが暴れてパニックになつたそうです。床屋の重い椅子をひっくり返す大事になつたそうです。

ある日、「○○の床屋さん。いらっしゃよ!」と聞いて、行ってみたそうです。すると、散髪する事が出来た。その違いは

めの「刺激を押さえる」と言う事だつたそうですが、この時を境にこの床屋に行くようになり今では無理せず最後まで散髪をされ、続いているとの事です。この床屋さんは、散髪が困難な人(例えばじつとできない小さな子どもなど)にそれでも対応してきた経験やスキルがあり、障がいに対する専門の知識がなくとも特別な事ではなくひとりのお客さんとして対応ができたのです。

「肯定的な関わりと信頼で人との関係性は出来ている」の縮図の様な事例だと思います。

このような関わりを通して世界が広がつて行き、信頼でつつまれる世の中に

なるといいなあと思います。自分が関わる自閉症の方々は、それぞれ個性の強い方でもあり、何故こうなる?と頭を抱えることもあるのですが、それが

楽しく思えるくらい魅力的です。そんな魅力を知つてもらう、気づいてもらう、それをどう受け止めて来たか、その様々な事を発信していく事があつてもいいかなと思います。

実際には紹介した事以外にも多くの事例や説明がありました。野澤和弘さんは街づくり等にも取り組まれておられるそうで、「肯定的な関わりと信頼で人との関係性は出来ている」このことは障がい当事者だけでなく、引きこもりの方にも、すべての方にも通じる言葉だと感じています。特に肯定的に捉える大きさ、重さを感じる事が出来た

## 惠愛ワーカーセンター

ジャー坊メロンパンが一番おいしい」等のうれしい言葉も多数いただき、お客様の期待に応えられるようなパン作りを目指そうと会議で話し合いを重ねています。

毎日の商品の品質チェックもより

## 進め！らそらパン

パン事業責任者 中村 留美

新型コロナウイルスによる、販売自粛が始まつて早三年…

「rasora」の売上も年々、いや、日々に厳しさを増しています。原材料の高騰、世の中いろいろな物が値上がりしていく中で、必需品というよりは嗜好品のパンにかけられる金額がだんだん減つてきているのを感じ、売り上げが下がつていて不安と焦り。

ともすれば、スタッフ一同下に向いてしまいそうなつらい状況ですが「ピンチはチャンス！」と捉え、今しかできない事に取り組もうと頑張っています。

まずは、既存の商品の見直し。お客様へのアンケートを行い「見た目がイマイチ。パッとしない。代り映えしない」等の率直な意見をいただき、落ち込んだりもしましたが一方で「らそらの来る日を楽しみにしています。スタッフの接客に癒されまです。今まで食べたメロンパンの中で

厳しく！お客様がこれならお金を出す価値があると思える商品なのかを客観的に判断しています。

そんな、私たちが皆様に喜んでいただける商品第一弾として開発したのが、キューブパン。五センチ四方のころんと可愛い形がポイントです。

クリーム・チョコ・あんこのスリード入り五〇〇円で販売します。

また、今年もクリスマスセットを企画しています。バージョンアップした「rasora」のクリスマスセットお楽しみに…。



キューブパン

3個入り 500円

## いざ、熊本へ

日帰り旅行委員 永野 祐真

十月一日(土)、十月八日(土)は二グループに分かれての日帰り旅行でした。

旅行の目的地は熊本城と城彩苑

という事で、旅行前からみなさん熊本に行つたら何がしたい、何が食べたいなど旅行の話で盛り上がり、とても楽しみにされているご様子でした。

旅行当日はそんな皆さん思いもあってか、二日間ともとても天気が良く絶好の旅行日和となりました。

熊本城は二〇一六年に起つた地震の爪痕が少し残つておりますが、迫力満点の熊本城を前に皆さん思い思いに写真を撮られたり、お話をされておりとても楽しそうでした。

熊本城見学後は城彩苑にてお昼ごはん＆お土産タイムとなり、皆さん美味しい料理の数々に大興奮のご様子で、思う存分美味しい料理に舌鼓を打つておられました。

次回はどこに行けるか今からワクワクが止まりません。

その後のお土産タイムでは、ご家族の方やお友達にお土産を買っておりましたが、お土産話とともにおいしく楽しく食べられたでしょうか？



帰りのバスなどで利用者の皆さんに話を聞くと、「とても楽しかった」や「また旅行に行きたい」などうれしい声がたくさん聞かれ、職員も利用者もとても楽しい日帰り旅行となりました。

## 子ども支援部会について

ハーツ

所長 古賀 敬之

大牟田市自立支援・差別解消支援協議会では、二〇一九年八月にそれまでの相談支援部会の中の子ども支援ワーキング会議から、常設部会としての「子ども支援部会」に移行しました。学校教育・幼児教育において、障がい児またはその可能性のある子どもが抱える課題の抽出と支援のあり方を検討するため、関係機関等（児童発達支援センター、児童発達支援事業所、相談支援事業所、教育委員会、大牟田病院（療養介護施設）、市（子ども支援課）子どもも育成課、福祉課障害福祉担当）等）が相互に連携しながら支援・指導・助言等ができる体制の構築を図るために立ち上げた部会です。

今年度は、乳幼児期については、福岡県障がい児等療育支援事業りんどうの森より活動報告を行い情報の共有を図るとともに、研修会等

の検討を行いました。学齢期については、大牟田特別支援学校の職員向けて福祉サービスに関する出前講座を開催しました。小・中学校在籍生徒を対象としたアンケート調査を実施し、定期的な情報共有の場などの必要性を検討していきました。また学童保育所での障がい児の受け入れ状況と気になる子に対する対応への不安などのアンケートを実施しました。医療面では、医療的ケア児の現状把握に努め、今後リストの作成とともに、災害時の対応の検討までもついていけたらと考えています。相談支援については、二〇二〇年から作成している障がい児社会資源マップ（おおむたの子どもたちの育ちや自立を支援するため）の更新を行いました。また放課後等デイサービス事業所等の質の向上を目指して勉強会を開催する方向で進めています。

障がい児を取り巻く課題は多くあります。しかし、関係機関等が連携・協力していくことで、より多くの子どもたちに適切な支援が行き渡り、健やかな育ちと自立につながっています。

## つくしんば亀谷での生活



事業副責任者 古川 智恵美

つくしんば亀谷が開設して半年が過ぎました。入居されている方は、特別支援学校の寄宿舎、福祉ホーム、アパート、夜間支援員が常駐していないグループホーム、それ

Eさん：寝てます。あとは、計算したり、書き物をしたりしています。  
Kさん：テレビを見たり、スマホを見たりしています。

○休日はどんな風に過ごしていますか？

Eさん：寝てます。あとは、計算したり、書き物をしたりしています。  
Kさん：ピンク色の壁がかわいくておススメです。

○亀谷のおススメはありますか？  
Eさん：生活しやすくて凄くいいです。  
Kさん：ピンク色の壁がかわいくておススメです。

当初は、お風呂の順番をどうするか、日中事業所の送迎時間までに準備をしておくこと等いろいろなことで利用者、職員共に右往左往していました。

半年経過し、グループホームの生活に慣れて来られたお二人にインタビューをしてみました。

○亀谷の住み心地はどうですか？  
Eさん：前に比べて全然ケガしなくなりたけん、よかよ。  
Kさん：楽しいです。今まで寄宿舎で三人部屋だったけど、一人

部屋になつて嬉しい。自分でできる事（水筒洗い）も出来るようになつた。



障害者就労・自立支援センター

## 「たんぽぽ」

### 就労継続A・B型親睦 日帰り旅行『水郷柳川編』

日帰り旅行委員長 起汐 孝昌

一〇二二年九月二十三日(祝)

金)、たんぽぽの就労継続支援事業では、A型利用者、B型利用者、職員で柳川に日帰り旅行へ行つてきました。

利用者の皆さんに旅行のご案内を渡した時から大盛り上がりのこの企画、前日まで利用者さん達の話題は旅行のこと、「舟に乗る時は座布団要りますか?薄いのと厚いのどつちがいいですか?」「お土産買えますか?」「早く送迎時間教えて下さい!」と、とても楽しみにされていました。

今回、「やさしい川下り」を企画されているエーデルワイスさんに舟への乗降のサポートと多くの写真を撮つて頂き、安心で安全な川下りを楽しむことができました。心よりなつたと感想を述べましょね」と伝えております。

笑顔は大盛りの日帰り旅行になりました。心より感謝しております。

ていました。



## 「働く・暮らす」利用者インタビュー

Vol.10

「働く・暮らす」利用者インタビューも今回で第10弾となりました。障害者就労・自立支援センターたんぽぽでは障がいがある方の地域での「働く・暮らす」を支えることを事業運営の柱とし、就労継続支援A型・B型・就労移行支援・就労定着支援のサービスを展開しています。今回は、新しく取り組んでいるデジタル化事業の就労継続A型で働いている利用者さんと、たんぽぽの就労移行支援を利用後、一般就職された方のお二人にいろんな質問に答えて頂きました。

**中島 和幸さん**

所属:就労継続支援A型(デジタル化事業)

Q たんぽぽではどのような仕事をしていますか?



A サテライトオフィスで書籍をデジタル化する作業のスキャニングの仕事をしています。

Q 仕事のやりがい(楽しい事)は何ですか?

A いろんな本が見れることが楽しいです。

Q お休みの日はどんなことをしているとが楽しいですか?

A 家で、携帯でゲームをしながらゴロゴロ~、ゴロゴロ~してます(笑)。趣味がゲームなんです。

Q これからのお仕事で頑張りたいことはありますか?

A スキャニングの目標があつて、1日700コマを超えるように頑張りたいです。

Q 夢や希望を教えてください。

A 声優さんのライブの為に東京に行きたいので、お仕事頑張ってお金を貯めて声優さんに会いに行きたいです。

#### 支援者より

たんぽぽデジタル化事業にて、日本最大の図書館である東京国立国会図書館さんの本のデジタル化という、とても大きなプロジェクトにスキャニング(本の撮影)作業員として日々奮闘されています。たんぽぽスキャニングチームの1期生の1人で、毎日目標の作業量を超える活躍で皆を引っ張るとても頼もしい“先輩”です。初めての取り組みで大変なお仕事ですが、これからも一緒にがんばりましょう!

**黒田 航平さん**

たんぽぽ大牟田中央サテライトオフィス出身

Q 今の業務内容は?

A 私は株式会社百年プロジェクトで働いています。主に当社の商品であるフレームルーキーの通販発送業務、HP作成、その他事務的な業務などを担当しています。



Q 仕事について教えてください。

A 合っていると思います。上司や先輩の皆さんは相談しやすく、挑戦することを支えてくれる存在です。失敗した時も叱責するのではなく、次どうやったら失敗しないようできるか、改善点などをアドバイスしてくれるので、とても仕事がやりやすいです。

Q 今後の目標は?

A 今後、もっとホームページ作成の技術を向上させて行きたいと思っています。うまくデザインできるようデザイン力を上げて行きたいと思っています。

#### 支援者より

黒田さんを雇用していただいている百年プロジェクト様は、もともとサテライトオフィスのデザイン講座を依頼していた企業様でした。黒田さんも受講者としてデザイン講座に参加されていましたが、その講座の中で技術力や仕事に対する前向きな姿勢を見初められ、百年プロジェクト様より直接雇用したいとのご相談を受けてご就職されました。就職後は、自ら進んでHP制作の技術やプログラミング技術を習得されるなど、主体的に仕事に取り組んでいらっしゃいます。今後は、定着支援の利用も予定されているため、長く働き続けられるよう支援を継続して行きたいと考えています。

二〇二二年八月一日  
二〇二二年十月十五日

※顧不同・敬称略



朝枝 育美、浅川 晴恵、大久保 隆生、  
太田 勝利、大西 克子、大牟田防災  
工業(株)、大牟田めぐみ教会、岡田 孝、  
緒方 正邦、奥蘭 千万喜、金子 敬・金  
子 知子、岸野 満子、古賀 敬之、柴田  
産業(株)、菅原 めぐみ、杉野 有美子、  
セブンイレブン大牟田銀水店、只松  
英男、東海バプテスト教会、都丸 利  
子、永野 はるみ、中村 直人、秦葉  
山田 俊介、(有)心介、(有)不知火メディック  
クスくぬぎ薬局、(株)秋山工務店、(株)  
サンフィールド、(株)大洋建設、(株)西日  
本医療センター、(有)かずや、医療法人  
CLS すがはら

ご協力ありがとうございました

■寄付金(一般、建設募金、友の会)

**恵愛友の会会員募集!!**

「障害者福祉」の益々の充実を願いつつ、ともに歩み支えていただける会員を募集しております。

一般会員	一口	500円/月
特別会員	一口	1,000円/月
賛助会員	一口	300円/月
団体会員	一口	10,000円/月

※一人でも多くの人に会員になっていただきたいと願っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

**献金申込送金先**  
**社会福祉法人 キリスト者奉仕会**

〒836-0895  
福岡県大牟田市新勝立町3丁目5番地15  
大牟田恵愛園 0944-51-8750

《銀行振込》 福岡銀行 大牟田支店  
普通 2512469  
《郵便振込》 郵便振替 01780-3-38380

※この献金は福祉事業活動のために活用させていただきます  
※郵便振込用紙を入れていますので、献金される方はご利用下さい。

大牟田恵愛園・恵愛ワークセンター・ハーツ・たんぽぽ・つくしんぼ

# クリスマス祝会の御案内

**日時:2022年12月17日(土)**  
**礼拝／10:00～ 茶話会／11:00～**

**場所:大牟田恵愛園・地域交流スペース**

**内容:クリスマス礼拝・茶話会**

メッセンジャー

**マウマウタン 牧師**  
(バプテスト国分キリスト教会)

茶話会では、  
楽しいゲームが  
あります。



※新型コロナウイルス感染防止の為、法人利用者、役職員の参加のみとさせていただきます。

**〈問い合わせ先〉 大牟田恵愛園 TEL (0944) 51-8750**